

日本技術者教育認定機構
〒108-0014 東京都港区芝 5-26-20
(建築会館 4F)
電話 03-5439-5031
FAX 03-5439-5033
E-mail accreditation@jabee.org

自己点検書

(1. 概要編)

対応基準：日本技術者教育認定基準（2012年度～）
適用年度：2016年度

芝浦工業大学 工学部 応用化学科

(エンジニアリング系学士過程)
(化学及び関連のエンジニアリング分野)

Engineering in Applied Chemistry

審査分類：認定継続審査

(新規審査の場合) 審査年度の前年度からの認定有効期間開始希望：有/無

注意：中間審査の場合、「自己点検結果」は中間審査項目についてのみ記載する

提出日 2016年 8月 31日

1.1 プログラム情報

(1) 高等教育機関名およびその英語表記：芝浦工業大学工学部, Shibaura Institute of Technology, College of Engineering

(2) プログラム名：応用化学科

(3) Program Title (プログラムの専門分野名の英語表記)：Applied Chemistry

(4) 学位名：学士 (工学)

(5) 連絡先

・ JABEE 対応責任者氏名：山田純

所属・職名：工学部長、工学部機械工学科・教授

郵便番号：135-8548

住所：東京都江東区豊洲 3-7-5

電話番号：03-5859-7310

ファックス番号：03-5859-7311

メールアドレス：jyamada@shibaura-it.ac.jp

・ プログラム責任者氏名：濱崎啓太

所属・職名：工学部 応用化学科 教授

郵便番号：135-8548

住所：東京都江東区豊洲 3-7-5

電話番号：03-5859-8153

ファックス番号：03-5859-8101

メールアドレス：hamie@shibaura-it.ac.jp

1.2 プログラム概要（プログラムの概要を2ページ程度で簡潔に記載する）

※ 新規審査で「認定の有効期間の開始日を、審査を受けた年度の前年度の4月1日とする」ことを希望するか否かを明記し、希望したプログラムは、「認定申請にあたっての留意点」の6. (b)、(c)の条件についても説明を加えてください。

（以下の項目は例示）

1. プログラムの沿革（これまでの学科／専攻・コース改組の経緯など）

本プログラム、応用化学科の前身は1954年に設立された工業化学科にさかのぼることができる。1993年には工学部全体でカリキュラムの改変が行われ、工業化学科では実験科目のみを必修科目とし、履修科目の自由度を増大させたプログラムとした。その後、社会の変遷にともない2001年に応用化学科と名称変更したが、これに伴うプログラムの大きな見直しはされていない。2004年度から専門科目の一部を改訂、英語、数学、物理と専門科目の一部に履修規定（選択必修）を設けるなどして応用化学コース（JABEE対応）を設置した。同年には、応用化学コースとあわせて化学総合コース（JABEE非対応）を併設した。これは旧来の卒業要件に対応するもので2005年度入学生の卒業をもって廃止した。2006年入試から「応用化学科」＝「応用化学コース」、すなわち「JABEEプログラム」のみの募集となり、入学生全員をJABEEプログラム応用化学科の履修生としている。2010年度には、2006年度から入学生全員をJABEEプログラム応用化学科の履修生としていることを配慮し、教育目標とカリキュラムの一部（単位区分等）を改め2011年度入学生から適用している。

2. 修了生の進路と育成する技術者像との関係

卒業生70%程度が卒業と同時に就職し、就職先も製造業を筆頭に（>40%）情報処理業、専門商社、環境関連サービス業、公務員など多岐に及んでいる。このことは本学応用化学コースの修了生には技術者あるいは、技術者としての視点からさまざまな業務を遂行することが要求され、専門知識のみならず化学に関わる知識と技術を基にさまざまな分野への柔軟な対応が求められている。これを受けて修了生が問題発見能力、問題解決能力をあわせ持ち、社会と自己の価値観のバランスと責任に基づいた判断力を備えた人材の育成を念頭に学習・教育目標を設定しカリキュラムを設計した。

3. 学習・教育到達目標の特徴や水準

芝浦工業大学は「社会に学び、社会に貢献する技術者の育成」を建学の精神とし、理工学の基礎知識及び幅広い専門知識を活用して、持続型社会の実現のために世界の諸問題を解決し社会貢献できる人材の育成を目的としている。この目的の実現のために工学部は以下のディプロマポリシーを定めている。

- 豊かな人格形成の基本と基礎的な学力を養い、専門領域を超えて問題を探求する姿勢を身につけます。
- 工学の本質を体系的に理解し、課題を解決する能力を身につけます。
- 複数のアプローチ、制約条件、社会に与える影響を考慮した、課題の解決方法を身につけます。

応用化学科はこれを受け、以下のディプロマポリシーを定めた。

- 化学を基盤とするための自然科学、工学一般に係る基礎知識と技術を習得した人材
- 化学を基盤とする生産技術の開発、生産管理、環境保全に携わる為に必要な知識と技術を習得した人材
- 社会における責任と倫理、他者との協調性を持って化学を基盤とする業務に携わる能力を習得した人材

上記の人材育成を目指すにあたり、応用化学科の学習・教育達成目標として以下の5項目（引用裏付け資料表2、表3）を策定している。

- (A) 確かな基礎と化学の専門知識に基づいて問題を解決する。
- (B) 地球環境および地域社会との調和を見据えて問題を発見する。
- (C) 常に自己研鑽を怠らず継続的な自己啓発を行う。
- (D) 的確な判断のもとに技術者として責任のある行動をとる。
- (E) 統合的な視点から計画を立て、課題を達成する。

4. 関連する他の教育プログラム（関連学科／専攻、関連コース等）との関係

芝浦工業大学、工学部では機械系2学科、電気系2学科、土木工学科、応用化学科、あわせて6プログラムがJABEE対応プログラムとして認定を受けている。

5. カリキュラム上の特色

基礎知識に裏付けられた専門知識の習得を狙いとして、1年次から段階的に専門科目を履修できるようにカリキュラムを設計している。3年次前期終了までに有機化学、無機化学、物理化学、分析化学の4つの基礎化学を習得し、これらと並行して化学工学、高分子化学、生物化学などの応用化学を順次履修できるよう科目を配置している。体験学習としての実験科目を1年次から4年次まで前期、後期に配置し、継続的に「手を動かす実習」を重視している。

6. その他の特色

社会が本学、応用化学科に要求する人材、技術者としての視点からさまざまな業務に対し柔軟に対処可能な人材の養成と教育を可能にすべく、応用化学科には有機化学、無機化学、物理化学、分析化学、化学工学、生命化学およびそれらの複合領域で研究を行う教員がバランスよく採用されている。

1.3 最近の教育改善の状況

※ 学生の学習・教育到達目標の達成状況に関する評価結果に基づき、また社会の変化に対応して、教育活動の基準1－3に則した点検をどのように実施しているかを簡潔に説明してください。さらに、その点検結果に基づいて、改善が必要と判断した事項があった場合はその改善事項に対する対応について記してください。また、点検結果に基づいて、現在の教育活動に問題がなく改善の必要がないと判断している場合は、その根拠を簡潔に説明してください。

工学部教授会、入試委員会、教育開発本部、教務委員会、FD委員会、JABEE推進委員会、学科会議がそれぞれ役割を分担し、教育活動における計画の策定、実行、点検を行っている。(工学部の教育点検システムフロー図(引用・裏付資料6. 1－2 工学部PDCA、大学web.) 工学部はプログラムの国際化を念頭にクォーター制へ移行が検討されており2017年度からは100分、14回の授業に移行する。

※ 最近の教育改善の状況について、PRしたい点も含めて簡潔に説明してください。また、これまでにJABEEによる認定審査を受けている場合は、過去の審査での指摘事項に対して取られた教育改善などについても言及してください。

芝浦工業大学は大学の国際化を目指し、学生の留学および留学生の受け入れを促進しており、工学部応用化学かも複数の科目を英語で開講している。今後は留学生のみならず留学後に帰国学生の履修も期待される。

前回指摘事項(旧基準)への対応

3.1(3): C、学習・教育達成目標を学生自身による継続的点検に対する指摘

成績通知書(応用化学コース成績証明書)は従来、印刷物での配布であったが、2013年度よりweb上、芝浦学生応援ツール「S☆g s o t (ガソット)」から学生自身が閲覧する方式に切り替わり、学生自身による継続的点検を支援している。

3.2(2): C、教員間ネットワークに対する指摘

工学部教授会、教育開発本部、教務委員会は専門学科教員のみならず、共通学群教員も含んで構成されており、それぞれの会議が問題点、それに対する対策、効果評価等を共有しており教育効果、改善に貢献している。共通学群科目会議で専門学科教員の参加と意見交換が求められることもあり、2016年度の物理学科科目会議には応用化学科から吉見靖男教授が出席し意見交換を行った。(2016.3.8、大宮校舎で開催)

4.1: C、施設設備に対する指摘

応用化学科の実験室床が OA フロアであったのに対し、耐水、対薬物、荷重の点から懸念が示された。その後、学生実験室については防水加工が施され改善された。研究室についても今後の改善が望まれる。

6.1 (2) : C、社会の要求や学生の要望にも配慮する仕組みと、それ自体を点検する仕組みに対する指摘

芝浦工業大学は JABEE 認定のみならず、学外部評価委員会、(財) 大学基準協会による大学基準の適合認定等を受け仕組み自体が点検され、その結果が公開されている。

※ 当該プログラムの教育に関して、教育改善のための研究活動や、それに関する論文発表や対外発表などがあれば、それについて具体的に記載してください。また、当該プログラムの教育活動に関連して開催したシンポジウムや、他の教育機関などからの講演依頼等もあれば記載してください。

「学研・進学情報」から取材を受け、「国際的な教育水準の認定で教育内容の質保証を実現。芝浦工業大学の JABEE 認定コース」として 2011 年 10 月号に掲載された。

1.4 自己点検結果編の総括文

※ 自己点検結果編を総括し、認定基準に対するプログラム全般の状況について簡単に説明してください。認定基準に対する適合度が特に高い項目や、今後さらに強化が必要な項目など、認定審査を行う際にポイントとなる事項についても言及してください。

適合度が特に高い項目◎、今後さらに強化が必要な項目○

◎ 基準 1 学習・教育到達目標の設定と公開

芝浦工業大学建学の理念に基づき、工学部および応用化学科のディプロマポリシーがそれぞれ定められ、これを受け、かつ JABEE の基準 (a) ~ (i) および、分野別要件を満たすように応用化学科の学習・教育到達目標が設定されており、内外に公開されている。

◎ 基準 2 教育課程の設計と公開

学習・教育到達目標に基づいて、カリキュラムが設計されており、それぞれの科目と学習・教育到達目標との対応はすべてのシラバスに記載され、シラバスは web 上に公開されている。

◎ 基準 3 学習・教育到達目標の達成

シラバスに明記された達成目標と評価基準に従って評価が行われ単位認定がなされてい

る。他の教育機関で取得した単位の認定基準、編入の単位評価基準に対して規定は存在するが、現在までにその運用実績はない。

◎ 基準4 教育改善とその継続的改善

教授会（年11回開催）から、教育開発本部（企画・運営部門）、JABEE推進委員会、教務委員会、入試委員会、学科会議に至るまでのPDCAサイクルの役割分担がなされ、プログラムの教育活動を点検している。授業アンケート、学生満足度調査、父母懇談会における父母からの要望・意見等を集計し、社会需要、要望に配慮した改善がなされている。外部評価委員会、(財)大学基準協会による大学基準の適合認定により仕組み自体の点検が継続的に行われている。

自己点検書

(2 . 自己点検結果編)

対応基準：日本技術者教育認定基準（2012年度～）
適用年度：2016年度

高等教育機関名

プログラム名

（希望認定種別名）

（希望認定分野名）

Program Title

審査分類：新規審査／認定継続審査／中間審査

提出日 2016年 月 日

記入上の注意

- ・白色のセルにのみ記入してください。着色及び網かけのあるセルには記入しないでください。
- ・「自己判定結果」欄に、プログラム側の視点で自己判定結果を記入してください。
自己判定の指標は下記のとおりです。
 - ◎：認定基準の要求事項を満たし、さらにそれを上回る取り組みを行っている
 - ：認定基準の要求事項を満たしている
 - △：認定基準の要求事項を概ね満たしているが、改善の余地がある
- ・「基準への適合状況の説明」欄に説明を簡潔に記入してください（多くても200文字程度を目安）。
- ・「前回受審時からの改善・変更」欄には、下記の説明を記入してください（多くても200文字程度を目安）。なお、新規審査の場合は記入不要です。
 - (1) 前回受審時の「W：弱点」に対する対応
 - (2) 前回受審時の「[C]：懸念」に対する対応
 - (3) その他の前回受審時からの改善、変更
- ・「根拠資料」欄には、根拠となる資料の名称と整理番号又はWebページのURLを記入してください。
添付資料、実地審査閲覧資料には整理番号を付し、該当する資料の整理番号を「根拠資料」欄に記入してください。
なお、整理番号は、添付資料と実地審査閲覧資料が区別できるよう付してください（例：TxxとJxx）。
この欄に記載した資料に対応させて、添付資料編の表5及び表6の一覧表を作成してください。
Webページで公開されているものについてはURLを記入してください。その場合でも、負担にならない範囲で自己点検書の添付資料に含めてください。

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
1	基準1 学習・教育到達目標の設定と公開				
1(1)	プログラムが育成しようとする自立した技術者像が定められていること。この技術者像は、プログラムの伝統、資源及び修了生の活躍分野等が考慮されたものであり、社会の要求や学生の要望にも配慮されたものであること。さらに、その技術者像が広く学内外に公開され、また、当該プログラムに関わる教員および学生に周知されていること。				
1(1)[1]	プログラムが育成しようとする自立した技術者像が定められていますか？	◎	応用化学科のディプロマポリシーとしてプログラムが育成する技術者像、学習・教育到達目標の説明は「学修の手引」（入学時に全学生に配布）に明記されている。（p135）また、JABEE基準との対応も入学時に対応表（カード）を配布し全履修生に周知している。	変更無し。	「学修の手引」（p135）
1(1)[2]	上記の技術者像は、プログラムの伝統、資源及び修了生の活躍分野等が考慮されたものですか？	◎	応用化学科のディプロマポリシーは、芝浦工業大学は学校法人の理念、「社会に学び、社会に貢献する大学」また工学部のディプロマポリシー、2003年度入学生より適用しているJABEE認定プログラムとその運用実績を配慮して2010年度入学生から適用している。	変更無し。	同上
1(1)[3]	上記の技術者像は、社会の要求や学生の要望にも配慮されたものですか？	◎	応用化学科のディプロマポリシーは、これまでの求人および採用状況、授業アンケート、卒業時アンケート、父母懇談会の実施実績などを配慮して策定されている。	変更無し。	授業アンケート、卒業時アンケート、父母懇談会
1(1)[4]	上記の技術者像は、広く学内外に公開されていますか？	◎	応用化学科のディプロマポリシーは「学修の手引」のみならず、大学webにも公開されている。	変更無し。	「学修の手引」（p135）、大学web
1(1)[5]	上記の技術者像は、当該プログラムに関わる教員及び学生に周知されていますか？	◎	応用化学科のディプロマポリシーは「学修の手引」に明記されており、入学時に全履修生、また年度はじめに当該年度のものが全教員に配布されている。	変更無し。	「学修の手引」（p135）、大学web
1(2)	プログラムが育成しようとする自立した技術者像に照らして、プログラム修了時点の修了生が確実に身につけておくべき知識・能力として学習・教育到達目標が設定されていること。この学習・教育到達目標は、下記の(a)～(i)の各内容を具体化したものであり、かつ、その水準も含めて設定されていること。さらに、この学習・教育到達目標が広く学内外に公開され、また、当該プログラムに関わる教員及び学生に周知されていること。なお、学習・教育到達目標を設定する際には、(a)～(i)に関して個別基準に定める事項が考慮されていること。				
1(2)[1]	プログラムが育成しようとする自立した技術者像に照らして、プログラム修了時点の修了生が確実に身につけておくべき知識・能力として学習・教育到達目標が設定されていますか？	◎	ディプロマポリシーに示した技術者像を学位認定方針として学習・教育到達目標が策定され、またこれらとJABEEプログラム基準の対応が明示されている。＜「学修の手引」にも表2を掲載した方が良い。＞	変更無し。	引用、裏付け資料、表2、表3
1(2)[2]	学習・教育到達目標は、下記の(a)～(i)の各内容を具体化したものですか？				

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
1(2)[2](a)	地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養	◎	(B) 地球環境および地域社会との調和を見据えて問題を発見する。現代の技術者には自然環境と社会、文化と人間のかかわりと技術が社会や自然環境に与える影響を洞察して仕事を進めることが必要とされている。工学部共通科目として開設されている人文社会系の科目を履修することで幅広い教養を持ち、「工業化学概論」(1年次)「化学工業総論」(3年次)では社会需要との調和を見据えて問題を解決する素養を身につける。これらにより(a)の知識と能力の修得が可能である。		引用、裏付け資料、表2、表3
1(2)[2](b)	技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任に関する理解	◎	(D) 的確な判断のもとに技術者として責任のある行動をとる。自然環境と社会、文化と人間のかかわりと技術が社会や自然環境に与える影響を洞察して仕事を進めることが現在の技術者に必要とされている。コース導入科目として位置づけられている「工業化学概論」(1年次)で将来に目指すべき人物像を見据え、「技術と倫理」(3年次)によって技術者としての倫理観を高める。また「化学工業総論」(3年次)を通して芝浦工業大学 応用化学コースの修了生に社会が求める人材、人物像を明確に認識した上で化学技術者としての使命と責任のある行動をとれる人材となることを目指す。これらにより(b)の知識と能力の修得が可能である。	変更無し。	引用、裏付け資料、表2、表3
1(2)[2](c)	数学及び自然科学に関する知識とそれらを活用する能力	◎	(A) 確かな基礎と化学の専門知識に基づいて問題を解決する。応用化学を支えるのは必ずしもその専門科目だけではなく、工学一般、自然科学、情報技術に関わる知識と応用能力が必要になる。これらの多くは講義・演習の共通課目として1、2年次に開設されているものが多く、専門科目群に先駆けて履修し取得しておくことが必要である。応用化学の基礎知識は主として講義科目で、講義は毎回の講義とそれに対する理解を中間試験および期末試験により評価する。また応用能力は実験科目、ゼミナール、卒業研究で涵養する。これら実験、実習等の体験型学習科目を通して自然科学、化学の基礎知識を問題解決に結びつける訓練をする。これらにより(c) (d-1) (d-2) (d-3) (d-4)の知識と能力の修得が可能である。	変更無し。	引用、裏付け資料、表2、表3
1(2)[2](d)	当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを活用する能力	◎	(A) 確かな基礎と化学の専門知識に基づいて問題を解決する。応用化学を支えるのは必ずしもその専門科目だけではなく、工学一般、自然科学、情報技術に関わる知識と応用能力が必要になる。これらの多くは講義・演習の共通課目として1、2年次に開設されているものが多く、専門科目群に先駆けて履修し取得しておくことが必要である。応用化学の基礎知識は主として講義科目で、講義は毎回の講義とそれに対する理解を中間試験および期末試験により評価する。また応用能力は実験科目、ゼミナール、卒業研究で涵養する。これら実験、実習等の体験型学習科目を通して自然科学、化学の基礎知識を問題解決に結びつける訓練をする。これらにより(c) (d-1) (d-2) (d-3) (d-4)の知識と能力の修得が可能である。	変更無し。	引用、裏付け資料、表2、表3

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
1(2)[2](e)	種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力	◎	(E) 統合的な視点から計画を立て、課題を達成する。 問題を解決し課題を達成するための情報収集と計画、実行、報告書の作成能力、議論する能力は1年次から3年次までに開設されている実験科目および卒業研究を通して取得する。2年次後期に開設している応用化学実験では「目的は示すが、方法が示されていない課題」が設定されており、未知試料に対し複数の分析方法が立案可能になっている。この課題では一定の制約の基でそれらを解決するための計画を立て、これを基に議論を進めていくことでエンジニアリングデザインの能力を涵養する。また卒業研究を進めるに当たって、その計画を立てるための文献調査、経過報告、中間発表を経て卒業論文の作成、卒業論文発表会（公聴会）によって問題解決能力を獲得していく。これらにより(e) (g) (h)の知識と能力の修得が可能である。	変更無し。	引用、裏付け資料、表2、表3
1(2)[2](f)	論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力	◎	C) 常に自己研鑽を怠らず継続的な自己啓発を行う。 化学技術者として情報を伝え、自己表現を行っていく為には日本語による口述、記述能力はもとより、チームコミュニケーション、リーダーシップなどの集団的コミュニケーションスキルに加え、国際的に仕事をしていく準備として英語のコミュニケーションの基礎能力を養う必要がある。応用化学コースでは共通科目として開設されている英語科目の6科目以上で単位取得することをコース修了要件（卒業要件）としている。また必修科目として開設している「応用化学ゼミナール1」、「応用化学ゼミナール2」、「卒業研究」で口述および記述能力を養成している。 これらの科目の学習により (f) (g) の知識と能力の修得が可能である。	変更無し。	引用、裏付け資料、表2、表3
1(2)[2](g)	自主的、継続的に学習する能力	◎	C) 常に自己研鑽を怠らず継続的な自己啓発を行う。 化学技術者として情報を伝え、自己表現を行っていく為には日本語による口述、記述能力はもとより、チームコミュニケーション、リーダーシップなどの集団的コミュニケーションスキルに加え、国際的に仕事をしていく準備として英語のコミュニケーションの基礎能力を養う必要がある。応用化学コースでは共通科目として開設されている英語科目の6科目以上で単位取得することをコース修了要件（卒業要件）としている。また必修科目として開設している「応用化学ゼミナール1」、「応用化学ゼミナール2」、「卒業研究」で口述および記述能力を養成している。 これらの科目の学習により (f) (g) の知識と能力の修得が可能である。 (E) 統合的な視点から計画を立て、課題を達成する。 問題を解決し課題を達成するための情報収集と計画、実行、報告書の作成能力、議論する能力は1年次から3年次までに開設されている実験科目および卒業研究を通して取得する。2年次後期に開設している応用化学実験では「目的は示すが、方法が示されていない課題」が設定されており、未知試料に対し複数の分析方法が立案可能になっている。この課題では一定の制約の基でそれらを解決するための計画を立て、これを基に議論を進めていくことでエンジニアリングデザインの能力を涵養する。また卒業研究を進めるに当たって、その計画を立てるための文献調査、経過報告、中間発表を経て卒業論文の作成、卒業論文発表会（公聴会）によって問題解決能力を獲得していく。これらにより(e) (g) (h)の知識と能力の修得が可能である。	変更無し。	引用、裏付け資料、表2、表3

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
1(2)[2](h)	与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力	◎	(E) 統合的な視点から計画を立て、課題を達成する。問題を解決し課題を達成するための情報収集と計画、実行、報告書の作成能力、議論する能力は1年次から3年次までに開設されている実験科目および卒業研究を通して取得する。2年次後期に開設している応用化学実験では「目的は示すが、方法が示されていない課題」が設定されており、未知試料に対し複数の分析方法が立案可能になっている。この課題では一定の制約の基でそれらを解決するための計画を立て、これを基に議論を進めていくことでエンジニアリングデザインの能力を涵養する。また卒業研究を進めるに当たって、その計画を立てるための文献調査、経過報告、中間発表を経て卒業論文の作成、卒業論文発表会（公聴会）によって問題解決能力を獲得していく。これらにより(e)(g)(h)の知識と能力の修得が可能である。	変更無し。	
1(2)[2](i)	チームで仕事をするための能力	◎	「応用化学実験」「化学工学実験」「有機化学実験」「物理化学実験」は3～4人のチームで行い、特に「応用化学実験」では1課題にチーム点が配点されている。	変更無し。	引用、裏付け資料、表2、表3
1(2)[3]	学習・教育到達目標は、水準も含めて設定されていますか？	◎	(iii) 学習・教育目標の水準の設定に関する説明 学習・教育到達目標を達成するための水準は各科目のシラバスに明記され、総単位124単位中73%以上が数学、自然科学および科学技術に関わる科目で構成されエンジニアリング系学士過程として十分な水準のプログラム構成になっている。	変更無し。	「学修の手引」(p136)
1(2)[4]	学習・教育到達目標は、広く学内外に公開されていますか？	◎	「工学部、学修の手引き」「芝浦工業大学 JABEEへの取り組み」vol.1.～vol.14.) 芝浦工業大学webに公開している。	変更無し。	応用化学科関連部分 p135-p152、実地審査閲覧資料 I-1 「学修の手引き」工学部2016年度) 実地審査閲覧資料 I-2 9、「芝浦工業大学 JABEEへの取り組み」vol.1.～vol.14.、(引用・裏付け資料 1-3 芝浦工業大学 J A B E E ホームページ関連部分
1(2)[5]	学習・教育到達目標は、当該プログラムに関わる教員及び学生に周知されていますか？	◎	同上 および、新入生には年度始めに「学修の手引き」を配布し、新入生ガイダンスでコースの概要と履修について説明し、周知している。また学生全員に配布している学生手帳に、「応用化学科の学習・教育目標とJABEEとの関連を示す表」をカードを添付して配布している。	変更無し。	(実地審査閲覧資料 I-1 「学修の手引き」工学部2011年度)、(実地審査閲覧資料 I-10 芝浦工業大学 学生手帳(教育目標カード))
2	基準2 教育手段				
2.1	2.1 教育課程の設計				
2.1(1)	学生がプログラムの学習・教育到達目標を達成できるように、教育課程(カリキュラム)が設計され、当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていること。また、カリキュラムでは、各科目とプログラムの学習・教育到達目標との対応関係が明確に示されていること。なお、標準修了年限及び教育内容については、個別基準に定める事項を満たすこと。				
2.1(1)[1]	学生がプログラムの学習・教育到達目標を達成できるように、教育課程(カリキュラム)が設計されていますか？	◎	大学の理念、工学部のディプロマポリシー、応用化学科のディプロマポリシーをもとに応用化学科の学習・教育到達目標が設定されプログラム修了とともにこれら目標が達成されるようカリキュラムが設計されている。	変更無し。	「学修の手引」(p135-152)
2.1(1)[2]	カリキュラムが当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていますか？	◎	「学修の手引」は入学時に全履修生、また年度はじめに当該年度のもの全教員に配布されておりカリキュラムは開示されている。	変更無し。	「学修の手引」(p135-152)
2.1(1)[3]	カリキュラムでは、各科目とプログラムの学習・教育到達目標との対応関係が明確に示されていますか？	◎	応用化学科の学習・教育到達目標と開設科目との対応と説明は「学習の手引き」(p137-140)に明示されている。	変更無し。	「学修の手引」(p135-152)、学生手帳(教育目標カード)

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.1(1)[4]	標準修了年限及び教育内容については、個別基準に定める事項を満たしていますか？	◎	4年間の就学を標準終了年源としており、化学分野個別要件をすべて満たすようプログラムが設計されていることは「学修の手引」(p136)に明記されている。	変更無し。	「学修の手引」(p1362)
2.1(2)	カリキュラムの設計に基づいて、科目の授業計画書(シラバス)が作成され、当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていること。シラバスでは、それぞれの科目ごとに、カリキュラム中での位置付けが明らかにされ、その科目の教育内容・方法、到達目標、成績の評価方法・評価基準が示されていること。また、シラバスあるいはその関連文書によって、授業時間が示されていること。				
2.1(2)[1]	カリキュラムの設計に基づいて、科目の授業計画書(シラバス)が作成されていますか？	◎	開設されているすべての科目についてシラバスが存在し、公開されている。	変更無し。	Webシラバス
2.1(2)[2]	シラバスが当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていますか？	◎	すべてのシラバスはweb上に公開されており、広く学内外から閲覧することができる。	変更無し。	Webシラバス
2.1(2)[3]	シラバスでは、それぞれの科目ごとに、カリキュラム中での位置付けが明らかにされ、その科目の教育内容・方法、到達目標、成績の評価方法・評価基準が示されていますか？	◎	すべての科目のシラバスについて、①達成目標、②授業計画、③評価方法、④教科書・参考書、⑤履修前の準備、⑥「学習・教育到達目標との対応」⑦予習、復習を含む「授業時間外課題」が明記されている。	変更無し。	Webシラバス
2.1(2)[4]	シラバスあるいはその関連文書によって、授業時間が示されていますか？	◎	すべての科目のシラバスに授業時間が明示されている。	変更無し。	Webシラバス
2.2	2.2 学習・教育の実施				
2.2(1)	シラバスに基づいて教育が行われていること。				
2.2(1)[1]	シラバスに基づいて教育が行われていますか？	◎	各教員は科目毎に授業実績記録を残しており、担当教員はシラバスにそった授業が行われていることを自己点検できる仕組みが存在している。授業実績記録は年度ごとにファイリングされていて学群書記センターに保管されており閲覧可能になっている。	変更無し。	授業実績記録
2.2(2)	学生の主体的な学習を促し、十分な自己学習時間を確保するための取り組みが行われていること。				
2.2(2)[1]	学生の主体的な学習を促し、十分な自己学習時間を確保するための取り組みが行われていますか？	◎	芝浦学生応援ツール「S☆gsot(ガソット)」が存在し、就学および学生生活に必要な様々な情報をwebより提供している。学生自身が時間割、履修履歴、取得単位などを確認できる。	変更無し。	(引用・裏付資料3.1-5 「学修の手引き」工学部2011年度、p.2、芝浦学生応援ツール「S☆gsot(ガソット)」)
2.2(3)	学生自身にもプログラムの学習・教育到達目標に対する自分自身の達成状況を継続的に点検させ、それを学習に反映させていること。				
2.2(3)[1]	学生自身にもプログラムの学習・教育到達目標に対する自分自身の達成状況を継続的に点検させていますか？	◎	成績通知書は芝浦学生応援ツール「S☆gsot(ガソット)」より随時参照することができ、履修生は継続的に達成状況を点検することができる。成績通知書(応用化学コース成績証明書)は従来、印刷物での配布であったが、2013年度よりweb上、芝浦学生応援ツール「S☆gsot(ガソット)」から学生自身が閲覧する方式に切り替わり、学生自身による継続的の点検を支援している。	変更無し。	芝浦学生応援ツール「S☆gsot(ガソット)」による成績通知書の閲覧記録
2.2(3)[2]	自分自身の達成状況の継続的な点検を学習に反映させていますか？	◎	成績不振者(取得単位数の少ない者)には、その保証人に対し「案内」を送付するとともに履修生本人の「回答書」の提出を義務付けている。	変更無し。	成績不振者への通達およびその回答書
2.3	2.3 教育組織				
2.3(1)	カリキュラムを適切な教育方法によって展開し、教育成果をあげる能力をもった十分な数の教員と教育支援体制が存在していること？				

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.3(1)[1]	カリキュラムを適切な教育方法によって展開し、教育成果をあげる能力をもった十分な数の教員と教育支援体制が存在していますか？	◎	応用化学科は専任教員12名、協力教員4名（共通学群化学科目）、非常勤講師4名が授業を担当しており、実験、演習などの科目ではティーチングアシスタント（大学院生）がこれらを支援している。これに加え工学部には教務委員会を始めとする教学組織が存在する。	変更無し。	引用・裏付資料3.2-1表7 教員一覧表、3.2-2表8 教員の担当している授業科目と活動状況、3.2-3 添付資料：教員個人データ 3.2-4 第1101回工学部教授会資料（3）-2
2.3(2)	カリキュラムに設定された科目間の連携を密にし、教育効果を上げ、改善するための教員間連絡ネットワーク組織があり、それに基づく活動が行われていること。				
2.3(2)[1]	カリキュラムに設定された科目間の連携を密にし、教育効果を上げ、改善するための教員間連絡ネットワーク組織がありますか？	◎	教員間連絡ネットワークとして、①工学部教授会、②工学部主任会議、③応用化学科教室会議、④教育開発本部、⑤教務委員会が存在し、いずれの会議も専門学科教員のみならず共通学群教員を含んで構成され、問題点、それに対する対策、効果評価等を共有しており教育効果、改善に貢献している。	工学部教授会、教育開発本部、教務委員会は専門学科教員のみならず、共通学群教員も含んで構成されており、それぞれの会議が問題点、それに対する対策、効果評価等を共有しており教育効果、改善に貢献している。共通学群科目会議で専門学科教員の参加と意見交換が求められることもあり、2016年度の物理学科科目会議には応用化学科から吉見靖男教授が出席し意見交換を行った。（2016.3.8、大宮校舎で開催）	① 工学部教授会（引用・裏付資料3.2-15 2016年度、教授会、主任会議、教室会議日程） ② 工学部主任会議（引用・裏付資料3.2-15 2016年度、教授会、主任会議、教室会議日程） ③ 応用化学科教室会議（実地審査閲覧資料Ⅲ.1-1 応用科学教室会議事録） ④ 教育開発本部（引用・裏付資料3.2-16 教育開発本部、大学Web.の関連ページ）
2.3(2)[2]	上記の教員間連絡ネットワーク組織に基づく活動が行われていますか？	◎	①工学部教授会年間11回開催、②工学部主任会議年間11回開催、③応用化学科教室会議年間10回開催、④教育開発本部年間11回開催、⑤教務委員会年間13回開催されている。	変更無し。	同上
2.3(3)	教員の質的向上を図る取り組み（ファカルティ・ディベロップメント）を推進する仕組みがあり、当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また、それに従った活動が行われていること。				
2.3(3)[1]	教員の質的向上を図る取り組み（ファカルティ・ディベロップメント）を推進する仕組みがありますか？	◎	①学長の下に全学FD・SD改革推進委員会が置かれ、工学部JABEE推進委員会とも連携してFD・SD講演会の開催など学校法人芝浦工業大学として併設校を含めた全学FD・SD推進を行っており、年1回のFD講演会（4月）を実施している。②工学部JABEE推進委員会、工学部11学科中6学科がJABEEプログラムをとって認定を受けている。工学部JABEE推進委員会では認定審査の受審を支援し、認定学科のみならず工学部11学科間のコンセンサスと情報共有に動いている。	変更無し。	（引用・裏付資料3.2-18 全学FD・SD改革推進委員会、大学Web.の関連ページ） （実地審査閲覧資料Ⅲ.2-1 工学部JABEE推進委員会議事録）
2.3(3)[2]	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員に開示されていますか？	◎	全学FD・SD改革推進委員会および教育開発本部における活動内容は工学部教授会にて報告されている。全学FD・SD改革推進委員会の活動は大学web.でも閲覧可能になっている。教育開発本部における活動内容を随時教授会にて報告しており、また、全学的なFDの取り組みは大学web.上に公開されている。	変更無し。	（引用・裏付資料3.2-18 全学FD・SD改革推進委員会、大学Web.の関連ページ） （引用・裏付資料3.2-18 全学FD・SD改革推進委員会、大学Web.の関連ページ）
2.3(3)[3]	上記の仕組みに従った活動が行われていますか？	◎	FD講演会（年1回、4月）を実施している。教育開発本部（年11回）、工学部JABEE推進委員会（年2回）開催している。	変更無し。	FD講演会告知、JABEE推進委員会議事録
2.3(4)	教員の教育活動を評価する仕組みがあり、当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また、それに従って教育改善に資する活動が行われていること。				
2.3(4)[1]	教員の教育活動を評価する仕組みがありますか？	◎	教育・研究等業績評価（自己評価方式）を実施している。評価項目は、①教育活動、②研究活動、③大学運営（社会貢献含む）とし、教育活動は、学士課程教育への貢献、大学院教育への貢献、学生支援活動等としている。評価方法は、全専任教員が年度当初（4月）に達成目標と活動計画を『目標計画書』に記述し、年度末（3月）に達成目標に対する達成度および改善点を『自己評価書』に記述し、学部長を経由し、学長に提出する。	変更無し。	教育・研究等業績評価

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.3(4)[2]	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員に開示されていますか？	◎	教育・研究等業績評価実施状況、教員業績情報システムを介して入力された各種情報は、データ更新の翌日には更新され大学WEBで公表される。	変更無し。	(教員データベース http://resea.shibaura-it.ac.jp/) (引用・裏付資料3. 2-20、21、22)
2.3(4)[3]	上記の仕組みに従って教育改善に資する活動が行われていますか？	◎	教員の教員資格の職能要件に基づく再審査を5年ごとに実施している。再審査項目は①教育業績(授業コマ数を含む)、②研究業績、③大学運営、学会・社会活動などである。また、専任教員の昇格審査でもこれらの評価を用いて審議されている。	変更無し。	教員資格審査
2.4	2.4 入学、学生受け入れ及び異動の方法				
2.4(1)	プログラムの学習・教育到達目標を達成できるように設計されたカリキュラムの履修に必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法が定められ、学内外に開示されていること。また、それによって選抜が行われていること。				
2.4(1)[1]	プログラムの学習・教育到達目標を達成できるように設計されたカリキュラムの履修に必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法が定められていますか？	◎	応用化学科のアドミッションポリシー(求める学生像)が定められており、入試委員会および工学部教授会で推薦入試の基準評点が定められ、一般入試は前期日程、後期日程ともに教・理・英の3教科の総合点で選抜が行われている。	変更無し。	(実地審査閲覧資料I-1「学修の手引き」工学部2011年度、p5)
2.4(1)[2]	必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法が学内外に開示されていますか？	◎	応用化学科のアドミッションポリシーは大学インターネットおよび学科の学生募集パンフレットに開示している。	変更無し。	大学Web, 応用化学科パンフレット
2.4(1)[3]	必要な資質を持った学生を入学させるための具体的な方法に従って選抜が行われていますか？	◎	大学入試委員会の運営のもと、推薦入試と一般入試により履修生を選抜している。	変更無し。	入試委員会議事録、教授会議事録の関連回部分
2.4(2)	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、その具体的な方法が定められ、当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていること。また、それによって履修生の決定が行われていること。				
2.4(2)[1]	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、その具体的な方法が定められていますか？		該当しない。	変更無し。	
2.4(2)[2]	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、上記の具体的な方法が当該プログラムに関わる教員及び学生に開示されていますか？		該当しない。	変更無し。	
2.4(2)[3]	プログラム履修生を共通教育等の後に決める場合には、上記の具体的な方法に従って履修生の決定が行われていますか？		該当しない。	変更無し。	
2.4(3)	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、その具体的な方法が定められ、学内外に開示されていること。また、それによって履修生の編入が行われていること。				
2.4(3)[1]	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、その具体的な方法が定められていますか？	◎	編入学の規定が定められている。	変更無し。	引用・裏付資料 3. 3-3 編入学規程 実地審査閲覧資料 Ⅲ. 3-3 2011年度編入学試験要項 Ⅲ. 3-4 2011年度学士入学試験要項
2.4(3)[2]	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、上記の具体的な方法が学内外に開示されていますか？	◎	書類(最終学校における成績・単位取得状況)、学力試験および面接の総合評価により判定する。入試委員会が行う可否判定会議においてその妥当性を審査の上、教授会において決定する。	変更無し。	引用・裏付資料 3. 3-3 編入学規程 実地審査閲覧資料 Ⅲ. 3-3 2011年度編入学試験要項 Ⅲ. 3-4 2011年度学士入学試験要項

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.4(3)[3]	学生をプログラム履修生として学外から編入させる場合には、上記の具体的な方法に従って履修生の編入が行われていますか？	◎	応用化学科では、JABEEプログラム以外からの編入を認めていない。JABEE認定を受けた2006年以降、編入実績がない。	変更無し。	引用・裏付資料 3. 3-3 編入学規程 実地審査閲覧資料 Ⅲ. 3-3 2011年度編入学試験要項 Ⅲ. 3-4 2011年度学士入学試験要項
2.4(4)	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、その具体的方法が定められ、関係する教員及び学生に開示されていること。また、それに従って履修生の異動が行われていること。				
2.4(4)[1]	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、その具体的方法が定められていますか？	◎	応用化学科にはJABEEプログラムのみが存在する。他学科、他学部に移籍する場合は大学の転科、転部の規定に準ずる。	変更無し。	「学修の手引」(p18) 転部、転科の規定
2.4(4)[2]	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、上記の具体的方法が関係する教員及び学生に開示されていますか？	◎	転科、転部の規定が存在し、「学修の手引」(p18)に記載されている。	変更無し。	「学修の手引」(p18) 転部、転科の規定
2.4(4)[3]	学内の他のプログラムとの間の履修生の異動を認める場合には、上記の具体的方法に従って履修生の異動が行われていますか？		過去6年間に転科、転部の実績はない。	変更無し。	
2.5	2.5 教育環境・学生支援				
2.5(1)	プログラムの学習・教育到達目標を達成するために必要な教室、実験室、演習室、図書室、情報関連設備、自習・休憩施設及び食堂等の施設、設備が整備されており、それらを維持・運用・更新するために必要な財源確保への取り組みが行われていること。				
2.5(1)[1]	プログラムの学習・教育到達目標を達成するために必要な教室、実験室、演習室、図書室、情報関連設備、自習・休憩施設及び食堂等の施設、設備が整備されていますか？	◎	東京都江東区に開校した豊洲キャンパス、埼玉県さいたま市見沼区に大宮キャンパス、東京都港区に開校した芝浦キャンパスを有地として保有しており、それぞれのキャンパスに必要な数の教室、コンピューター実習室、製図室、実験室、図書館、食堂等が整備されている。3キャンパスにはSRAS (Shibaura-it Remote Access Service) と呼ばれるリモートアクセスシステムを設置しており、自宅や出先などからインターネットを利用して学内のネットワークに接続したり、持ち込んだコンピュータを利用して教室から学内ネットワークに接続するサービスを提供している。学生個人のポータルサイト (S☆gsot(ガソット)) では、履修登録、休講情報、成績閲覧、シラバス閲覧等、多くの情報が取得できる。	応用化学科の実験室床がOAフロアであったのに対し、耐水、対薬物、荷重の点から懸念が示された。その後、学生実験室については防水加工が施され改善された。研究室についても今後の改善が望まれる。	(引用・裏付資料4. 1-1 大学敷地面積明細)(実地審査閲覧資料 IV. 1-1 SIT CAMPUS GUIDE 2011)
2.5(1)[2]	上記の施設、設備を維持・運用・更新するために必要な財源確保への取り組みが行われていますか？	◎	収入の中心である学生等納付金は安定的に確保されている。大学全体として人件費を抑制する一方、教育研究経費の充実に力を入れている。また、本学では、「教育費は学費から、研究費は自助努力により獲得すること」を目標に、文部科学省等科学研究費や研究助成金等補助金などの外部資金獲得の重要性を自覚し、教員による学外への研究費申請行為および経費管理・不正防止等の支援や、学外者との共同研究活動促進を支援する専門部署「連携推進部 産学官連携課・研究支援課」を設置している。	変更無し。	(引用・裏付資料4. 2-1 財務比率推移) (引用・裏付資料4. 2-2 消費支出推移) (引用・裏付資料4. 2-3 科学研究費取得状況)
2.5(2)	教育環境及び学習支援に関して、授業等での学生の理解を助け、学生の勉強意欲を増進し、学生の要望にも配慮する仕組みがあり、それが当該プログラムに関わる教員、職員及び学生に開示されていること。また、それに従った活動が行われていること。				

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
2.5(2)[1]	教育環境及び学習支援に関して、授業等での学生の理解を助け、学生の勉学意欲を増進し、学生の要望にも配慮する仕組みがありますか？	◎	(1)学習サポート室：授業中の疑問点や学習の進め方についてのアドバイスなど、学習全般の相談の場として多くの学生が利用している。(2)学生センター：学生の個人的生活から課外活動をはじめ、学生が抱えている諸問題について助言、指導を行う組織として、教員と職員から構成される(3)学生相談室：悩みを抱える学生に対し、専門カウンセラーが適切なアドバイスを行っている。(4)ハラスメント防止委員会：各キャンパスには教職員によるハラスメント相談員を配置し、また、相談ポストを設置し、随時相談受付を行っている。(5)電話によるカウンセリング、健康相談受付(24時間)その他、学生の要望については、卒業時に満足度調査を実施しており、勉学面、施設面などについて要望を開き、統計結果を教職員に開示している。また、全学学部では、学生による授業アンケートを実施している。	変更無し。	(実地審査閲覧資料IV. 1-1 SIT CAMPUS GUIDE 2016)
2.5(2)[2]	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員、職員及び学生に開示されていますか？	◎	学生支援システムは、学生生活について紹介した冊子「SIT Campus Guide」を入学時に全員に配付して情報の周知を図っている。また、大学のWEBサイトにも同様の内容を掲載し、教職員・学生への開示されている。	変更無し。	(実地審査閲覧資料IV. 1-1 SIT CAMPUS GUIDE 2016)
2.5(2)[3]	上記の仕組みに従った活動が行われていますか？	◎	活動実績の記録が存在し、教授会で報告がなされている。	変更無し。	(実地審査閲覧資料IV. 1-1 SIT CAMPUS GUIDE 2016)
3	基準3 学習・教育到達目標の達成				
3(1)	シラバスに定められた評価方法と評価基準に従って、科目ごとの到達目標に対する達成度が評価されていること。				
3(1)[1]	シラバスに定められた評価方法と評価基準に従って、科目ごとの到達目標に対する達成度が評価されていますか？	◎	評価基準および評価方法は、各教科のシラバスに明記されている。科目ごとの評価は各担当教員がシラバスに記載した評価基準に基づいて行っている。複数の学習・教育目標を持つ科目についてはそれぞれの目標に対応する評価と達成度を目標毎に教員と履修生の双方で点検できる。	変更無し。	(引用・裏付資料3. 1-2 シラバス(プログラムに含まれる共通、専門、実験科目等抜粋)引用・裏付資料5-1 表9 応用化学コース開設科目の到達目標と評価配分、(実地審査閲覧資料II-1 応用化学コース成績証明書)(実地審査閲覧資料III. 1-2 2009、2010年度授業実績記録)
3(2)	学生が他の高等教育機関等で取得した単位に関して、その評価方法が定められ、それによって単位認定が行われていること。編入生等が編入前に取得した単位に関しても、その評価方法が定められ、それによって単位認定が行われていること。				
3(2)[1]	学生が他の高等教育機関等で取得した単位に関して、その評価方法が定められていますか？	◎	他大学等のJABEE認定プログラムで取得した単位については該当プログラムのシラバスを基に対応する科目の単位を原則として認定する。JABEE認定を受けていないプログラムで取得した単位(編入等を含む)の場合は原則としてこれをコース修了に必要な授業時間、卒業単位としては認めない。工学部外の単位認定については別に規定を設けている。	変更無し。	(引用・裏付資料5-2 工学部学外単位等認定制度規程)、「学修の手引き」(引用・裏付資料5-3 学外単位認定制度に係る部分)、学生課による掲示(引用・裏付資料5-4 学外単位等認定、申請手続きの開示)
3(2)[2]	学生が他の高等教育機関等で取得した単位に関する上記の評価方法に従って単位認定が行われていますか？	◎	学生本人の単位認定の申請に基づき該当する科目の担当教員の意見を基に該年度の教務担当教員が学科教室会議に諮り、さらに工学部単位認定委員会の審査を受け、教授会で審議の上で、編入前の取得単位として認定する仕組みがある。ただし、2006年度全入学生をコース履修生としてから他の教育機関から編入生受け入れの実績はない。	変更無し。	該当しない
3(2)[3]	編入生等が編入前に取得した単位に関して、その評価方法が定められていますか？	◎	学生本人の単位認定の申請に基づき該当する科目の担当教員の意見を基に該年度の教務担当教員が学科教室会議に諮り、さらに工学部単位認定委員会の審査を受け、教授会で審議の上で、編入前の取得単位として認定する仕組みがある。	変更無し。	該当しない

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
3(2)[4]	編入生等が編入前に取得した単位に関する上記の評価方法に従って単位認定が行われていますか？	◎	2006年度より全入学生をコース履修生としてから他の教育機関から編入生受け入れの実績はない。	変更無し。	該当しない
3(3)	プログラムの各学習・教育到達目標に対する達成度を総合的に評価する方法と評価基準が定められ、それによって評価が行われていること。				
3(3)[1]	プログラムの各学習・教育到達目標に対する達成度を総合的に評価する方法と評価基準が定められていますか？	◎	達成度評価方法と評価基準はそれぞれの科目ごとに定められておりシラバスに明記されている。複数の学習・教育目標を持つ科目ではそれぞれの目標ごとに評価し60%以上の得点をもって合格としており総合的に達成度が評価されている。	変更無し。	webシラバス
3(3)[2]	上記の評価方法と評価基準によって評価が行われていますか？	◎	講義科目については課題レポート、中間試験、期末試験などを総合して100点満点とし、実験科目については、実験報告書の他、プレゼンテーションや試問の評価を総合して100点満点とし60点を「合格」の基準としている。	変更無し。	(実地審査閲覧資料Ⅱ-1 応用化学科成績証明書)
3(4)	修了生全員がプログラムのすべての学習・教育到達目標を達成していること。				
3(4)[1]	修了生全員がプログラムのすべての学習・教育到達目標を達成していますか？	◎	2006年度入学生から応用化学コースの修了要件と卒業要件は同一になっており、卒業と同時に修了生全員が学習・教育目標を達成している。	変更無し。	(実地審査閲覧資料Ⅱ-1 応用化学コース成績証明書、Ⅱ-2 . 2009年・2010年度 卒業生単位取得状況)
3(5)	修了生はプログラムの学習・教育到達目標を達成することにより、基準1(2)の(a)～(i)の内容を身につけていること。				
3(5)[1]	修了生はプログラムの学習・教育到達目標を達成することにより、基準1(2)の(a)～(i)の内容を身につけていますか？	◎	基準1(2)の(a)～(i)と応用化学科の学習・教育目標および開設されている科目との対応は引用裏付け資料の表2、表3に示されており、修了生は卒業時にこれらの能力を身につけている。	変更無し。	引用裏付け資料、表2、表3
4	基準4 教育改善				
4.1	4.1 教育点検				
4.1(1)	学習・教育到達目標の達成状況に関する評価結果等に基づき、基準1～3に則してプログラムの教育活動を点検する仕組みがあり、それが当該プログラムに関わる教員に開示されていること。また、それに関する活動が行われていること。				
4.1(1)[1]	学習・教育到達目標の達成状況に関する評価結果等に基づき、基準1～3に則してプログラムの教育活動を点検する仕組みがありますか？	◎	教授会(年11回開催)から、教育開発本部(企画・運営部門)、JABEE推進委員会、教務委員会、入試委員会、学科会議に至るまでのPDCAサイクルの役割分担がなされ、プログラムの教育活動を点検している。	変更無し。	工学部の教育点検システムフロー図(引用・裏付け資料6.1-2 工学部PDCA、大学web.) (引用・裏付け資料6.1-3 教育開発本部、授業アンケートに関する提案、工学部教授会資料1102)
4.1(1)[2]	上記の仕組みが当該プログラムに関わる教員に開示されていますか？	◎	教授会をはじめ、すべての委員会には議事録が存在し、教職員に公開されている。	変更無し。	教授会等、議事録(学内web公開)
4.1(1)[3]	上記の仕組みに関する活動が行われていますか？	◎	工学部の教育点検システムフローにしたがってPDCAが行われ、活動とその点検が行われている。	変更無し。	教授会等、議事録(学内web公開)
4.1(2)	その仕組みは、社会の要求や学生の要望にも配慮する仕組みを含み、また、仕組み自体の機能も点検できるように構成されていること。				

番号	点検項目	自己判定結果	基準への適合状況の説明	前回受審時からの改善・変更	根拠資料
4.1(2)[1]	教育点検の仕組みは、社会の要求や学生の要望にも配慮する仕組みを含んでいますか？	◎	授業アンケート（教育開発本部）、学生満足度調査（学生課）、卒業生・企業、父母懇談会における父母からの要望・意見等（キャリアサポート課）を集計し、教職員に公開することにより社会の要求や学生の要望に配慮している。	変更無し。	引用・裏付資料名 6.1-6、大学生の就業力育成事業 大学web. 関連ページ（p.16） 6.1-7、学生センターによる学生の要望に基づく話し合い（p.17） 実地審査閲覧資料 VI.1-3 大学教育支援事業実行委員会、会議資料 VI.1-4 工学部アンケートに基づく要望書、工学部学生会 (実地審査閲覧資料VI.1-6 カリキュラム変更、教授会資料) (実地審査閲覧資料III.2-2 工学部JABEE推進委員会議事録) (引用・裏付資料6.1-8 大学基準の適合認定、大学web. 関連ページ) (実地審査閲覧資料VI.1-5 大学外部評価委員会による評価、教授会資料)
4.1(2)[2]	教育点検の仕組みは、仕組み自体の機能も点検できるように構成されていますか？	◎	工学部教務委員会（年13回開催）をはじめ大学教育再生プログラム（AP）教学会議（年10回開催）、工学部JABEE推進委員会（年2回開催）によりプログラムのしくみと機能の点検がなされているほか、JABEE認定以外にも学外部評価委員会、(財)大学基準協会による大学基準の適合認定等を受け、その結果が公開されている。	芝浦工業大学はJABEE認定のみならず、学外部評価委員会、(財)大学基準協会による大学基準の適合認定等を受け仕組み自体が点検され、その結果が公開されている。	
4.1(3)	その仕組みを構成する会議や委員会等の記録を当該プログラムに関わる教員が閲覧できること。				
4.1(3)[1]	教育点検の仕組みを構成する会議や委員会等の記録を当該プログラムに関わる教員が閲覧できますか？	◎	評価、点検結果は教授会で報告されるとともに、大学web上にも公開されている。応用化学科の教室会議事録は会議開催後に構成教員にメールで配信され、材料科学・化学群書記センターに保管されており、随時閲覧することが可能になっている。	変更無し。	教授会、教務委員会等の議事録は教職員端末で閲覧できる。(実地審査閲覧資料III.1-1 応用科学教室会議事録)
4.2	4.2 継続的改善				
4.2	教育点検の結果に基づき、プログラムの教育活動を継続的に改善する仕組みがあり、それに関する活動が行われていること。				
4.2[1]	教育点検の結果に基づき、プログラムの教育活動を継続的に改善する仕組みがありますか？	◎	工学部入試委員会、工学部教務委員会、工学部教育開発本部が存在し定期的に委員会が開催され、継続的な教育改善が提案されている。また教授会と同様も応用化学科教室会議は月例会であり継続的な改善が提案、審議、実施されている。	変更無し。	教授会、教務委員会等の議事録は教職員端末で閲覧できる。(実地審査閲覧資料III.1-1 応用科学教室会議事録)
4.2[2]	上記の仕組みに関する活動が行われていますか？	◎	上記委員会による提案事項は工学部教授会にて審議、可決された案件は実施されている。	変更無し。	同上